

発寒ひかり
保育園だより

2020年
6月号

巻頭言

子どもたちに新型コロナウイルス感染症はどのようなものか、またマスクをつける必要性など、具体的にわかりやすい言葉で伝えています。保育士手作りの紙芝居（玄関ボードの棚にも置いています）を利用したりして、特に「なぜ？」と問いかけ、自分なりに考えることを大切にしています。上から「マスクをつけなさい」「手を洗わないとダメ」と言われるよりも、必要性をそれぞれが感じることで自発的に行動するようになります。

当園ではこれまでも、トラブルなどがあつた際などなるべく子どもたち自身に考えてもらおう機会を設け、特に4・5歳児は話し合いを行うことを大事にしてきました。

先が見えにくい難しい時代、これからの子どもたちにとって、「20世紀は、知識集約・知識偏重型の教育でした。答えがすでにわかっているものをどう解くか。そんな力を伸ばすための教育が中心でした。でも、これから必要なのは、答えが見つかってない問いに対して、情報を集め、人と意見を交換しながら斬新な考えを出せる知性、そしてそれを上手にプレゼンし、協働できる能力」（東京大学名誉教授、白梅学園前大学長・汐見稔幸先生著書より引用）が重要であると言われています。

現在の新型コロナウイルス感染症の対応も、まさにこのような力が必要とされているのではないのでしょうか。「アフターコロナ」の世界で、大切にしたい当園の保育理念を守りながら、どのように実際に保育を進めていくべきか。私たち大人も難しい問いに挑んでいかなければと思います。子どもたちの笑顔と未来のために。

主任 阿部 尚子